

授 業 科 目 名	音 声 学	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	1年（後期）
担 当 教 員 名	松本 亮、春芳 準朗	単 位 数	2単位
		時 間 数	60時間
授業概要 学習目標	〔授業概要・学習目標〕 この授業は、言語聴覚士として必要な音声学・音韻論の基礎知識を身につけることを目的とする。音声の基本的な特性を理解し、文節的要素だけでなく、超文節的要素についても学ぶ。		
授業回数	授業内容		
第 1 回	音声と音声学		
第 2 回	音声算出の仕組み		
第 3 回	母音		
第 4 回	子音		
第 5 回	音声表記(IPA)とその発音①		
第 6 回	音声表記(IPA)とその発音②		
第 7 回	発音・聞き取りの練習		
第 8 回	音素と異音		
第 9 回	日本語の音素と異音①		
第 10 回	日本語の音素と異音②		
第 11 回	日本語の音素と異音③		
第 12 回	音変化と音の成分		
第 13 回	形態素と音の交替		
第 14 回	連濁		
第 15 回	前半のまとめ		
第 16 回	音節		
第 17 回	モーラ		
第 18 回	音節・モーラが関連する現象		
第 19 回	アクセント①		
第 20 回	アクセント②		
第 21 回	アクセント③		
第 22 回	アクセント④		
第 23 回	諸方言のアクセント		
第 24 回	イントネーション①		
第 25 回	イントネーション②		

第 26 回	イントネーション③
第 27 回	プロミネンスとポーズ
第 28 回	その他の現象
第 29 回	後半のまとめ
第 30 回	全体のまとめ
評価方法	課題・小テスト50%、期末試験50%
教科書 参考図書	〔教科書〕 「日本語音声学入門 改訂版」三省堂 斎藤 純男(2006) 〔参考図書〕 必要に応じて、授業中に紹介する。
履修上の 留意点	復習を必ず行うこと。 確認のために、ほぼ毎回小テストを行う。
メッセージ	この授業では、知識を得るだけではなく、実践も非常に重要になります。 基本的には講義形式をとりますが、一方向的な講義ではなく、双方向的な授業を行いたいと思っています。授業に積極的に参加する心構えで受講してください。